

# 山口七夕会通信

VOL. 20  
2014年  
1月20日

発行：山口市七夕会事務局  
(山口市企画経営課内)  
山口市亀山町2番1号  
TEL：083-934-2746  
FAX：083-934-2642

## 新年あけましておめでとうございます



新しき年を迎え、会員のみなさまには益々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

山口七夕会にとりまして今年は、創立15周年の節目の年となります。

会報の創刊や15周年記念誌の発行などをはじめ、「祭りと絆で人と情報の交流」の理念のもとに会員のみなさまとともに来し方を振り返り、行く末を見開きたいと考えています。

2010年に定めました「山口七夕会2020ビジョン」も今年は折り返しの年を迎え、リニューアルをめざします。さらに、首都圏と山口支部を両極として、会員の輪を広げ、活動の充実を図っていきますので、よろしくご協力をお願いします。

平成26(2014年)年1月

山口七夕会  
会長



### 目次

- 八木重二郎会長/挨拶.....1
- 「15周年記念誌」原稿募集、新役員紹介.....2
- <首都圏イベント情報>  
「第20回会員交流会」&「お花見ウォーク&懇親会」  
のお知らせ.....3
- <首都圏だより>  
「第19回会員交流会」を開催しました！.....4
- <山口支部だより>  
「第8回ふるさと交流会」&「第1回おいでませ山口・夢発見ウォーク」を開催しました！.....5



＝新年役員会の模様(1月18日/花・味兆)＝

＝七夕会通信の他に、次のものも同封して送らせていただきました。ご確認ください。＝

- 市報「やまぐち」(11月、12月、1月1日号) ○イベント出欠連絡票 (FAX用紙)
- 法人会員からのお知らせ (西の雅常盤、山口市菜香亭パンフレット) ○空港アクセス利用の方へのご案内 (山口市交通政策課・山口県外会員のみ)

### 【重要なお知らせ】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(市報等の資料が届かなくなってしまう！)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務処理に必要となります)

〒753-8650 山口市亀山町2番1号 山口市総合政策部企画経営課内  
山口七夕会事務局 TEL 083-934-2746/FAX 083-934-2642

# <山口七夕会・15周年記念誌 / 原稿募集！>

(1)「編集委員会」(武内副会長、山縣幹事長、吉松幹事、森脇逸男)では、以下のテーマで原稿を募集します。

- ①「私と山口七夕会」～会発足から今までの出来事やエピソードをお寄せ下さい。
- ②「私と山口」～山口にゆかりのある思い出から最近の出来事までお寄せ下さい。
- ③「私の今」～会員の方の今を語る原稿をお寄せ下さい。

(2)字数

多くの方々の原稿を掲載するため、1,200字以下でお願いします。

(3)原稿締め切り:平成26年3月31日必着

(4)送り先:□FAX番号:042-596-4816 □メール:yamagata1954@utopia.ocn.ne.jp

□郵送:〒190-0161 あきる野市入野 415-19 山縣正彦

(5)発刊:平成26年7月(予定)

# <山口七夕会・新役員 / 首都圏事務局・自己紹介！>



【副会長/武内衛子】

<山口市出身>

郷里山口への想いは熱く、歌が！お酒が！大好きな1945年生まれ。

たくさんの、ステキな出会いを大切にしたいと思います。

宴会担当お任せください！！



【幹事/大嶋愛子】

学生時代を山口で過ごしました。人生とは面白いものですね～。還暦の年から初めてパスモを片手に、南青山の日本料理 花・味兆(はなみちよう)に出勤することになりました。萩市の実家がスポンサーです。

□■□■□■ 株式会社 岸田商会 東京支店

■□■□■ 東京都港区南青山2丁目4-4 南青山コアパレス201

□■□■ TEL(03)6804-0771

■□■ FAX(03)6804-0772

□■ <http://www.ponzuya.co.jp>

■ E-mail [tokyo-gyoumu@ponzuya.co.jp](mailto:tokyo-gyoumu@ponzuya.co.jp)



【首都圏事務局長/大枝幹夫】

高校時代を山口市で過ごしました。

実家は萩市です。

出来る事は少しですが一生懸命つとめます。よろしく願いいたします。



【首都圏事務局次長/田村廣修(たむらひろのぶ)】

生まれも育ちも東京ではありますが、「山口～萩往還」を応援してからすっかり山口のトリコになりました。

大好きな山口のために少しでもお役に立てれば幸いです。

## 「山口七夕会第 20 回会員交流会」のお知らせ

1. 日時:平成 26 年 3 月 2 日(日)11:00~14:00(受付開始 10:30~)

2. 場所:霞ヶ関ビル 35 階 東海大学校友会館

3. 講演会(11:00~11:45)

◇講演:「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域(仮題)」

◇講演内容

幕末から明治にかけての重工業を中心とする一連の産業遺産は、日本の誇るべき宝であり、日本として、2015 年の世界遺産登録に向けて動き出しています。

九州・山口と関連地域にある明治日本の産業革命遺産と世界遺産登録に向けての取り組みをおはなしいただく予定です。

◇講師:五十嵐 誠氏(産業遺産国民会議/事務局長)

### <産業遺産国民会議 設立趣意書>

産業国家にとって、産業文明の仕事や営みは科学へ挑戦してきた国の近代化の歩みそのものである。わが国に宿るものづくりの心は、この国を豊かな国にしようと試行錯誤を繰り返してきた匠の技にある。やがてその志は海を渡り、わが国に「技術という文化」をもたらし、産業のシステムやインフラを構築し、この国の形をつくった。これらは大戦や経済不況や災害、時代の波にもまれ、時には屈折し、挫折しながらも世代を超えて継承されてきた。

産業とその経済活動がもたらした遺産は科学的、技術的、社会的価値を有し、文明社会の形成においてかけがえのない歴史的意義を持つ。産業はシステムであり、その多くには「遺産」という言葉が適合せず、現役稼働の先端技術の現場で未来に生きている。「技術という文化」は時代のニーズや産業の発展とともに進化変容し、また今後も進化するものである。

十九世紀後半、幕末の志士は志を胸に極東の閉ざされた島国を植民地化から守るため、産業化という道を選択し、わずか半世紀で、国家の質を変革した。中でも重工業は、経済圏での地位を確保する工業国家の原動力となり、100年の時を超え国の屋台骨を支えている。産業は市民の営みの歴史であり、その生活文化や知恵と情熱がわが国の繁栄を支える原動力である。産業を支えた名もなき人々の尊い文明の仕事を次世代に継承することを目的とし、ここに国民会議を設立する。

平成 21 年(2009 年)、ユネスコ世界遺産の暫定一覧表掲載「九州・山口の近代化産業遺産群」は、幕末から明治にかけての急速な産業化の道程を証言するシリアルノミネーションであり現役産業施設を含む 28 の構成要素が 8 県 11 市に立地する。本国民会議は同世界遺産登録を支援し、内外へ情報発信および啓発活動を行い、明治維新の産業革命の世界文化遺産の登録に向け国民の合意形成を図り登録実現を支援する。

4. 会務報告(11:45~12:00)

5. 懇親会(12:00~14:00)

6. 会費 6,000 円(講演会のみ出席は 1,000 円資料代として申し受けます。)

※会費は当日会場にて申し受けます。

## 「お花見ウォーク & 懇親交流会」のお知らせ

1. 日時:平成 26 年 4 月 5 日(土)9:00~14:00

2. 場所:(1)お花見ウォーク:靖国神社/大村益二郎公銅像下集合 9:00~靖国神社参拝~千鳥ヶ淵戦没者墓苑~乃木神社~青山一丁目(約 5 km)

(2)懇親交流会:花・味兆(会員の大嶋愛子さんゆかりのお店です。)

東京都港区南青山二丁目 4-4 南青山コアパレス1F(TEL&FAX:03-3746-2552)

3. 会費:男性 6,000 円、女性 5,000 円

### ★出欠の連絡

(1) 別紙の「出欠連絡票」により FAX または郵送

(2) 別紙の「出欠連絡票」の内容を yamagata1954@utopia.ocn.ne.jp 宛にメール

(3) 準備の都合上、誠に勝手ながら 2 月 7 日(金)までに、出欠の御連絡をいただきますようお願いいたします。



## <首都圏だより>

### 第19回会員交流会を開催しました！

平成25年11月30日(土)に東海大学校友会館(霞ヶ関ビル35階)において37名の参加で開催しました。

◇講演:「八重の桜と白虎隊ー白虎隊士の孫がその真相に迫るー」

◇講演内容

- ・会津飯盛山で集団自刃した白虎隊。彼らはなぜ自刃したのか？
  - ・同じ頃西郷頼母の家族 21 人が自刃した。彼女らはなぜ自刃したのか？
  - ・唯一の生残り白虎隊士が手記を残していた！直系の孫がその真相を明らかにする。
  - ・飯沼貞吉のその後一空白の2年間は長州にいた！
- ◇講師: 飯沼一元(いぬまかずもと)氏



今回の講演講師は、白虎隊唯一の生き残り「飯沼貞吉(後に貞雄)」の直系の孫にあたる飯沼一元氏にお願いしました。飯沼貞吉が、自決から蘇生に至った経緯とその後の回生について語られました。特に集団自刃の理由については、「城が燃えて落城したと思い、藩主の後を追った」との通説を否定して、史実により、「武士の本分を明らかにすることにあつた。」と述べられました。

また、「会津と長州」についての歴史的いきさつや気質にいたる比較など興味深いお話を聴くことができました。最後に、「定吉長洲逸話の意義」として、「単なる珍しい逸話として済ます訳にはいかない。人生は旅である。旅で大切なことは、出会いと転機である。貞吉は印出ハツに出会って一命をとりとめ、榎崎頼三と高見フサに出会って、回生の転機を掴んだ。会津・長洲といったしがらみを超えた生き方の例として語り伝えていく価値があろう。」と結ばれました。(山縣・記)

